

# 清野 沼田 体操 全国

## 道高校 十勝勢初2枠 新人大会

体操の第29回道高校新人大会兼全国高校選抜大会北海道予選会(11月22、23日、江別市・道立野幌総合運動公園体育館、道体操連盟、道高体連主催)で十勝ジュニア体操クラブの2選手が快挙を達成した。男子1部個人総合で清野竜仁(たつみ)と江陵2年11が1位、沼田京助(帯柏葉同)が2位となり、全国選抜大会(来年3月24日・広島)の出場権を得た。北海道の全国行き2枠を十勝勢が初めて独占した。清野は今季、全国高校総体(インターハイ)と国体、沼田は国体に出場しており、道内でも屈指の実力を誇っている。(北雅貴)

2選手を指導する同クラブで札幌の3年生に次ぐ2部の村田浩一郎コーチ(帯位。この新人戦では優勝候補大助教)は「2人とも立派。(全国選抜に向けて)冬の間は演技の美しさを追求するとともに、新しい技も習得してほしい」と期待する。

道大会は床、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目の合計点で争われた。清野は6月の道高体連

弁はしてきれいに見せることに注意。あん馬は1位、つり輪は3位と好結果だった。

得意種目の一つの跳馬は踏み切ってから体を4分の1ひねって横向きで手を付くツカハラ跳びの1回転半と自己ベストを更新した。150位と「非常に不本意だったインターハイで、上位選手の完成度の高さに驚き、自分の未熟さを感じて精進してきた成果を発揮した。

沼田は今年の国体の道予選で4位に入り、2年ぶりの全国の雰囲気味わった。堅実さが武器だが、その後の練習で調子を崩したまま今大会に臨んだ。「守りの気持ちにならずに攻めよう」と聞き直って床の演

技を始めた。清野に次ぐ2位と無難なスタートを切った。

あん馬では序盤に膝が器具に当たるミスでバランスを崩し掛けたが、演技を止めることなく旋回を続けた。「一つひとつの技を正確に」と言い聞かせて11・000の2位。続くつり輪とともに自己ベストをたたき出した。

最終種目の鉄棒は自身の中で最も安定している種目だ。いきなりの離れ技にも「今までにないぐらいうまくいった」と、しっかりと流れに乗り、12・000と種目1位に輝いた。2位争いのライバルと見ていた須川侑生(札幌啓成1年)とは総合で0・050差の小さな差。インターハイ出場を逃した悔しきから、練習で自分に厳しく取り組んだ努力が実った。

全国選抜に向けて清野は「床と跳馬の種目別で8位以内を狙う。そのために技の全てでスキルアップが必要」と意気込む。沼田は「(全国までに)新しい技の習得に挑戦したい。順位は気にせず、自信につながる技」と練習に打ち込む決意だ。(1位と関係分)

### 清野 高めた完成度発揮 沼田 攻めの演技で流れ



道高校新人大会優勝の清野竜仁と沼田京助(左から)。道代表として2人で全国に挑む

- 【男子1】  
 ▲個人戦▽1部7床11  
 清野竜仁(江陵)13・550  
 ②沼田京助(帯柏葉)12・6007  
 あん馬11・清野竜仁11・750  
 ②沼田京助11・007  
 つり輪11・須川侑生(札幌啓成)12・050  
 ②沼田京助11・550  
 ③清野竜仁11・4507  
 跳馬11・清野竜仁13・800  
 ③沼田京助12・9007  
 平行棒11・須川侑生12・200  
 ②清野竜仁12・150  
 ③沼田京助11・50007  
 鉄棒11・沼田京助12・000  
 ③清野竜仁11・4007  
 総合11・清野竜仁74・100  
 ②沼田京助71・550